

試合用ユニホームのデザイン

東大和高校野球部のユニホームのデザインは創部以来、現在までほとんど変わっていない。白色に左胸には縦に緑で東大和の文字。サイドには今ではあまり見かけない太い緑色の一本ライン、帽子は白に緑のエイチマーク、アンダーシャツもストッキングも緑、少し暗めの緑色は校旗と同じでスクールカラーらしい。私がいた頃は試合用のユニホームはチーム持ちで、大会のメンバーに入るとこのユニホームが配られた。だからメンバーに入れない選手はこのユニホームを着られなかったので、選手にとってこのユニホームは特別な意味があった。その後、肩口のマークなどで若干の変更はあったかもしれないが、基本的にこのデザインを変えようという話は聞かない。1期生の頃から50年以上続く卒業生や父母の思いや、かつて夏の大会2度の準優勝の実績から「都立の星」といわれたこと、そして今日まで続く周囲からの期待を考えるとなかなか変えづらいただろう。

都立高校で教員の異動で監督が変わった際に、今までとは違う新しいチームであることを内外に宣言するために、または監督のユニホームのデザインへのこだわりなどからデザインを一新することがある。試合用ユニホームを個人持ちとしていれば、新たに3万円位負担してもらって学年が出てくる(通常2学年)ので簡単なことではない。加えて卒業生たちのユニホームへの思いもあるだろうから、変えることで母校への愛着を断ち切りかかぬない。

府中工業に移動した際、グレーに黒のシンプルなデザインには好感を持ったものの、ローマ字の胸のマークがいまひとつしっくりしない気がした。また新生府中工業をアピールするためにも、前監督の館野先生のご了解をいただき、胸のマークを縦に漢字で府中工とすることにした。左胸に縦で漢字3文字、当時東大和の野球を継承したいという私の思いの表現でもあった。選手の負担を考え、運動具店にお願いして従来のユニホームのローマ字のマークを1つずつ丁寧にはがして、その上に漢字のマークを縫い付けた。だから、ローマ字のマークの跡が少し残ってしまっていたが仕方なかった。府中工業ではその後、若干の変更はありながら、このデザインを今日まで続けてくれているのは何となく嬉しい。

片倉のユニホームは以前監督をなさっていた執印先生がデザインしたものであった。ツートンの帽子やライン入りのストッキング、胸に大きな漢字のマークは先生がその前に監督をなさり、開設からベスト4の強豪にまで育てあげた南野高校のものによく似ていた。先生の思いが伝わってきて簡単には変えてはいけないと思った。(ストッキングだけは特注で値段やできるまでの時間がかかることから一色に変えてもらった。そのユニホームでベスト4に進出、選手たちは神宮球場で躍動した)。

その 年後、東京都の「元気アッププログラム」に応募したところ、夏の遠征分の費用が都から出ることになった。もしユニホームを変えるなら、親の負担を考えるとこのタイミングしかないと考えた。私は選手と保護者に相談して変えることにした。その際、基本的なデザインは変えないことにした。特に胸の大きな片倉の2文字は執印先生が知り合いの有名な書家の方に書いてもらったものと聞いていたので、変えてはいけないと思った。動きやすいということで、マークを〇〇プリントのものにし、地の色をグレーにした。袖口の東京の文字は八王子と変えた。これは以前ベスト4の時、八王子市の関係者の方から、八王子初の甲子園出場を目指してほしい、期待してると言われたことがきっかけである(この年に八王子高校が初の甲子園出場を果たすが)。

またこのデザインだとツートンの帽子は合わないということで紫色のものにした。従来のものを残しながら新しいデザインを取り入れる「不易流行」であり、自分としては納得のいく変更であった。このユニホームでの最初の夏の大会でチームは久しぶりのベスト8進出を果たした。

ユニホーム1つとっても歴史やそれぞれの思いが詰まっていることを選手たちに知ってもらいたいものだ。